

越後平野における生態系ネットワークの推進について

R5.3.13

第9回 阿賀野川大規模氾濫に関する減災対策協議会
第4回 阿賀野川水系(阿賀野川)流域治水会議

越後平野における生態系ネットワークの推進について

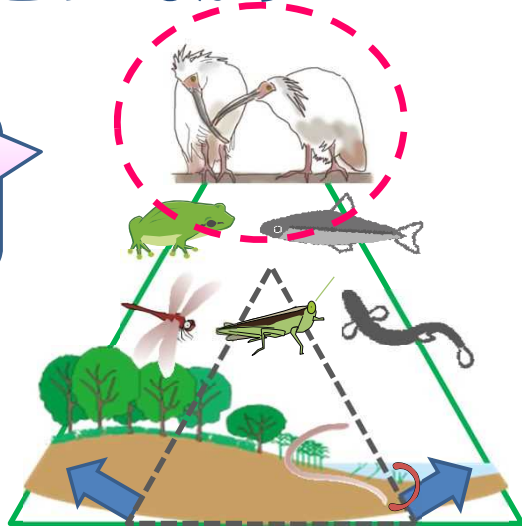
北陸地方整備局
河川部 河川計画課

生態系ネットワークとは

生態系

ある範囲にすむ生き物と、その生きものがすみかとする環境とのつながり

大型水鳥類は生態系ピラミッドの最上位に君臨



生態系ネットワーク

- 保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組み。
- 人と自然とのふれあいの場を提供することで、地域に社会面・経済面において様々な効果をもたらすことが期待される。



生態系ネットワーク（イメージ）

河川は、森林や農地、都市などを連続した空間として結びつける、国土の生態系ネットワークの重要な基軸となる空間です。（図中の矢印は、多様な環境が健全な状態でつながっていることを、生き物の動きとして模式的に示したもの）

国の行政計画書での位置付け

- 2010年の生物多様性条約第10回締約国会議を契機に、取組みが本格化。
- 平成24年に「生物多様性国家戦略2012-2020」が閣議決定される。
- 各省が策定した各種計画でも、生態系ネットワークの形成を図ることが明記。

国土交通省	2011年	「持続可能で活力ある国土・地域づくり」の推進
	2013年	安全を持続的に確保するための今後の河川管理のあり方について〔答申〕（社会資本整備審議会）
	2014年	環境行動計画 ー環境危機を乗り越え、持続可能な社会を目指すー
	2014年	国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～
	2015年	第二次国土形成計画（全国計画） → 2016年 広域地方計画
	2015年	第4次社会資本整備重点計画 重点施策としてR2までに全国で協議会設置が明記
	2017-19年	水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議/フォーラム
農林水産省	2012年	農林水産省 生物多様性戦略
	2013年	国有林野の管理経営に関する基本計画
環境省	2014年	生物多様性条約第5回国別報告書



生物多様性を活かした地域振興や生態系ネットワークに関する全国の主な取組みを紹介したパンフレット
左：環境省（2016） 右：国土交通省（2017）



水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議
（主催：国土交通省 運営：（公財）日本生態系協会）

■ 生態系ネットワーク形成に関する省庁連携会議

2016年度から、国土交通省・環境省・農林水産省の三省連携の会議を定期的に行われ、情報共有や意見交換が行われている。

越後平野における生態系ネットワーク形成に向けた検討経緯

H26

◆**全国の生態系ネットワークの取組み状況の整理**

H27

◆**環境特性・課題の整理**

H28

◆**生態系ネットワークの指標種の検討**

H29

◆**生物多様性の取組み状況の整理**

H30

◆**推進方策の検討**

H31

R1

◆**推進協議会の設立** 令和元年7月22日

目的：越後平野における生態系ネットワーク形成の推進
越後平野の自然の価値及び魅力を活かした地域の
活性化、地域づくり

◆**全体構想の検討**

◆**取組内容の検討**

- 担当者連絡会 (H28.3)
- 庁内勉強会 (H28.9)
- 第2回担当者連絡会 (H28.10)
- 第3回担当者連絡会 (H29.3)
- 生態系ネットワーク勉強会 (H31.1)
- 生態系ネットワーク準備会 (H31.4)
- 生態系ネットワーク推進協議会 (R1.7～)

■推進協議会の協議事項

- ・生態系ネットワーク形成の推進に関すること
- ・指標種の生息環境の保全、再生及び創出に関すること
- ・自然の価値や魅力を生かした地域の活性化、地域づくりに関すること
他



第1回協議会開催状況（R元. 7. 22）

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会の実施体制

- 越後平野の河川、田園、里潟等における水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用のため、多様な主体が連携・協働し、生態系ネットワークの形成に関する取組を進めている。今年度は、生態系ネットワークの全体構想及び行動計画の骨子の作成に向けた検討を、推進協議会及び部会にて議論を行う。
- 北陸地整では令和元年7月22日に協議会を設立。部会は、今年度設置。

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

ハード面の取組み

- 各主体が実施する生物多様性の保全・配慮の取組みを尊重しつつ、全体構想の策定など方向性を設定し推進する。
- 生物の生息・生育・繁殖の場所の整備、保全
- 水域の連続性の確保、改善 等

ソフト面の取組み

- 情報の共有及び発信、環境調査、普及啓発活動、イベント等について、連携・共同して推進する。

	氏名(敬称略)	所属等	
学識有識者 ※	河口 洋一	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授	
	関島 恒夫	新潟大学 農学部 教授	
	藤田 美幸	新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科 准教授	
	細山田 得三	長岡技術科学大学 環境社会基盤工学専攻 教授	
NPO・団体 ※	佐藤 巖	孤湖の白鳥を守る会	
	佐藤 安男	新潟県水鳥湖沼ネットワーク	
	鈴木 重彦	一般社団法人長岡市緑地協会	
	千葉 晃	新潟県野鳥愛護会	
	餅谷 紀男	北陸建設振興会議 NPO研究委員会	
新潟県	環境局長	新潟県環境局	
	農林水産部長	新潟県農林水産部	
	農地部長	新潟県農地部	
	土木部長	新潟県土木部	
	新潟市	環境部長	新潟市環境部
		農林水産部長	新潟市農林水産部
		土木部長	新潟市土木部
	長岡市	環境部長	長岡市環境部
		新発田市	課長
	阿賀野市		民生部長
農林水産省		農村環境課長	北陸農政局農村振興部農村環境課
	環境省	野生生物課長	関東地方環境事務所 野生生物課
国土交通省		河川部長	北陸地方整備局河川部
	事務所長	信濃川河川事務所	
	事務所長	信濃川下流河川事務所	
	事務所長	阿賀野川河川事務所	
オブザーバー	佐渡市 農業政策課長	佐渡市農業政策課	

委員長

※五十音順(氏名)

生息環境検討部会

越後平野における生態系・生息環境の検討

	氏名(敬称略)	所属等	
学識有識者※	河口 洋一	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 准教授	
	関島 恒夫	新潟大学 農学部 教授	
	藤田 美幸	新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科 准教授	
団体	佐藤 安男	新潟県水鳥湖沼ネットワーク	
行政	農林水産省	農村環境課長	北陸農政局 農村振興部 農村環境課
	環境省	野生生物課長	関東地方環境事務所 野生生物課
	新潟県	課長補佐	新潟県 土木部 河川整備課
		課長補佐	新潟県 農林水産部 農産園芸課
		課長補佐	新潟県 農地部 農地計画課
	新潟市	自然共生室長	新潟県 環境局 環境対策課 自然共生室
		土木総務課長	新潟市 土木部 土木総務課
		農村整備・水産振興課長	新潟市 農林水産部 農村整備・水産振興課
		環境政策課長	新潟市 環境部 環境政策課
	長岡市	環境政策課長	長岡市 環境部 環境政策課
新発田市	環境衛生課長	新発田市 環境衛生課	
国土交通省	総括保全対策官	信濃川河川事務所	
	副所長	信濃川下流河川事務所	
	副所長	阿賀野川河川事務所	
オブザーバー	農業政策課長	佐渡市 農業政策課長	

※五十音順(氏名)

自然環境活用部会

地域資源を活かした地域振興・経済活性化の検討

氏名(敬称略)	所属 役職
磯貝 浩史	公益社団法人 新潟県観光協会 課長
河口 洋一	徳島大学 大学院社会産業理工学部研究部 准教授
木村 直	新潟県生活協同組合連合会 専務理事
関島 恒夫	新潟大学 農学部 教授
玉木 朋人	新潟県商工会連合会 事務局長
中村 茂	新潟日報社 総合プロデュース室 プロデューサー(室長)
藤田 美幸	新潟国際情報大学 経営情報学部 経営学科 准教授
村山 敏夫	新潟大学 工学部 人間支援感性科学プログラム 准教授
○山田 秀行	新潟市北区観光協会 会長 豊栄商工同友会副会長
○	新潟県土木部河川整備課(新潟地域振興局・新発田地域振興局)
○	新潟市北区役所産業振興課
○	新発田市観光振興課
○	福島潟みらい連合
○農業政策課長	佐渡市 農業政策課

※五十音順

○オブザーバー

注)協議会及び勉強会の名簿は、令和5年3月時点

越後平野における生態系ネットワークの指標種の検討

■ 大型水鳥類を指標種とする理由

1

生態系ピラミッドの頂点に君臨し、その存在が、ピラミッド全体の良好な環境の存在が認識できる。

2

飛来行動も含めた生息範囲が比較的広く、多様な主体の連携が容易。

3

アピール性が高く地域も含めた多くの人々に受け入れられやすい

■ 指標種

ガン類(オオヒシクイ、マガン)

- 国の天然記念物。福島潟は日本一越冬地であり、オオヒシクイのマスコットキャラクターが制作されている。
- 竿になったり、鉤になったりして飛ぶ姿は遠い昔から

ハクチョウ類(コハクチョウ、オオハクチョウ)

- 越後平野は国内最大規模の越冬地となっている。
- ビッグスワンスタジアム、アルビレックス新潟で象徴となっているほか、新潟市・阿賀野市の鳥であり、地域住民に愛される生き物である。

歌にも詠まれ、日本人に親しまれてきた生き物である。

トキ

- 国の特別天然記念物。日本国内における自然保護の象徴とされ、アピール性が高い。
- 新潟県の鳥であり、佐渡島を拠点に継続的な保護活動が行われている。



コハクチョウ



オオヒシクイ



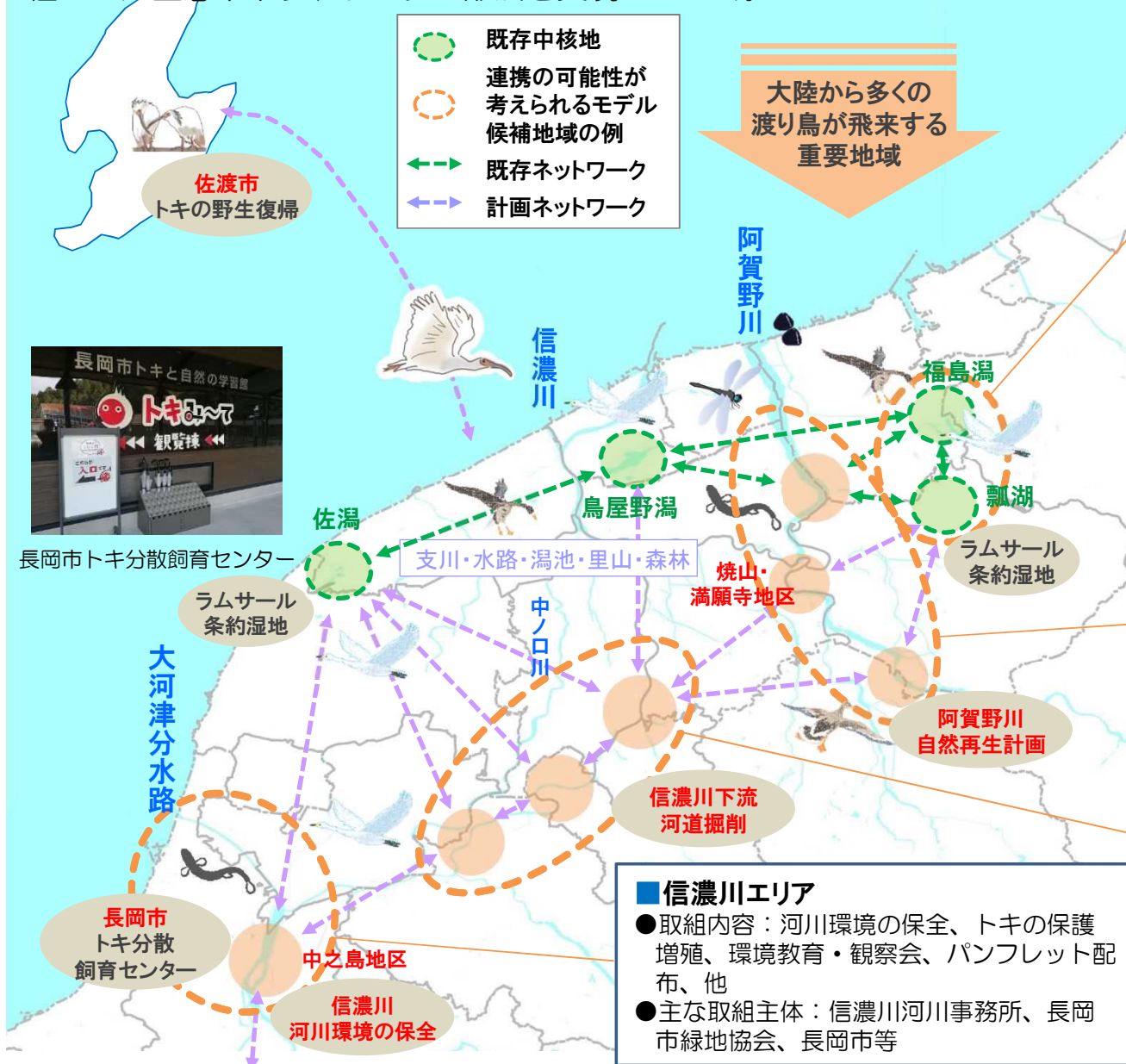
トキ



福島潟

越後平野における生態系ネットワーク形成の展開イメージについて

令和元年度から取組みとして、越後平野における大型水鳥類の保全・活用の現状や河川環境関連事業について整理している。今後、連携の可能性が考えられる事業やモデル候補地域について検討、協議し、生態系の広域的なつながりを示す大型水鳥類を指標種とした生態系ネットワークの形成を実現していく。



■福島潟・瓢湖エリア

- 取組内容：個体数調査、環境教育・観察会、ハクチョウ観察ツアー、パンフレット配布、グッズ・ブランド農産物の開発・販売、水鳥のパトロール、他
- 主な取組主体：新潟県水鳥湖沼ネットワーク、瓢湖の白鳥を守る会、新潟県、新潟市、阿賀野市等



環境に優しいお米の販売



福島潟湖畔の観察ツアー

■阿賀野川エリア

- 取組内容：河岸浅場の創出、ワンドの再生、連続性等の自然再生事業、他
- 主な取組主体：阿賀野川河川事務所、土地改良組合等



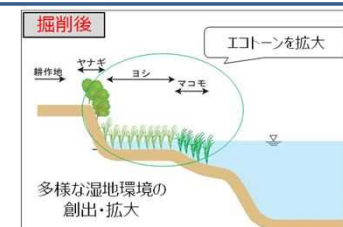
自然の再生イメージ



阿賀野川で休憩する水鳥

■信濃川下流エリア

- 取組内容：河岸浅場、ねぐらの創出、他
- 主な取組主体：信濃川下流河川事務所、新潟県、新潟市等



多様な主体との取組とその効果について

■ 多様な主体との連携とその体制構築

流域全体のネットワーク化を進めるためには、河川管理者だけではなく、自治体、農林漁業者、NPO、学校や企業など流域内の多様な主体の連携し、協働が必要。参加してもらうためには、参加することにメリットを示すことが大切である。



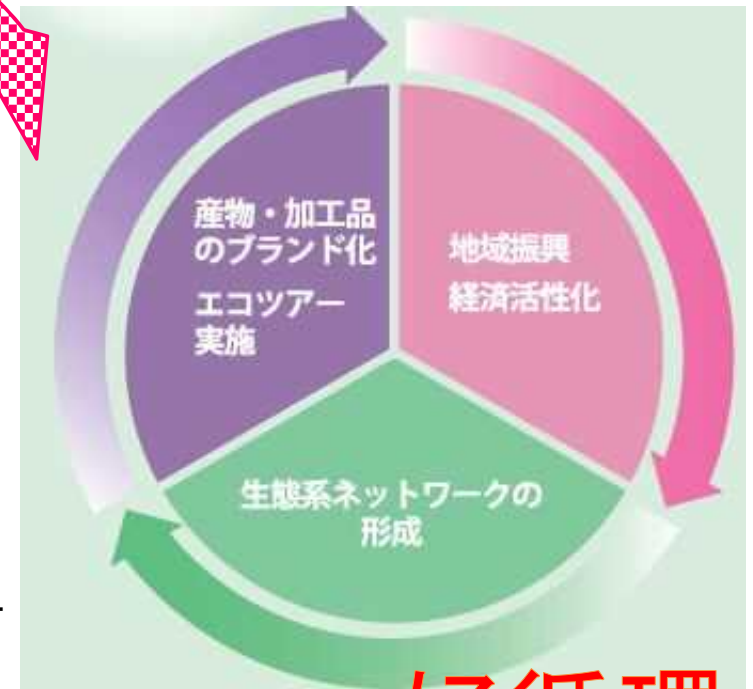
取組の推進

農業、観光、商工など、多様な分野の人たちとの連携し、協働。

◎連携することにより

企業との連携は、資材や労力の面での支援、経済的価値が生まれるアイデアの提供、企業にとっては地域貢献活動の機会となる。

これらの多様な主体との連携・協働による生態系ネットワークの取組を推進によって、環境面、社会面、経済面での好循環させ、メリットが期待できる。



好循環